

●論文「あなたにとって本当の『友情』とは何ですか？」

今回のテーマは「友情」。多くの人が友人やクラスメイト、幼なじみなどとの交流を描いていました。題材が身近にあるので、取りかかりやすいテーマだったのではないのでしょうか。その分、どの作品も似たような印象になってしまった感は否めません。一つ一つの作品としてはまとまっているのですが、「コンテスト」でもあるこのコンクールの状況設定を考えると、もう少し個性的な、「おっ！」と驚くような題材があってもよかったかなと思います。論文といえども、書き手が書きたいことだけを書くのではなく、読み手が読みたくなるような、つい引き込まれてしまうようなストーリー展開が必要です。やはり審査員の心をつかむような表現があるかないかが重要なのです。

優秀賞は「本当の友情を求めて」でした。ネットでつながる便利な世の中で、「本当の友情とは何か」とストレートに疑問を投げかけます。論文はこの論文が何を論じているのか、ということが前半と最後にあるとすっきりします。ここでは「楽しい状況だけでなく、喧嘩もするような場面でも成り立つのが友情ではないか」と仮説を投げかけます。その後、中学時代の親友と喧嘩した時の経験談へと移ります。論文の中で必ずほしいのが「具体的な体験談」です。自分が経験したこと、見聞きしたことを具体的に、簡潔に取り上げ、そこで感じたことや学んだこと、いまなお悩み続けていること、などのエピソードを取り上げるようにしましょう。ここでは「喧嘩や言い合いなどをしたうえで、お互いに非を認めあったことが友情を深める結果になった」として、結論である「実際に人と触れ合う体験をすることが重要だ」へとつなげました。自然な流れでした。欲を言えば、「現実の世界」の対比として出した「インターネットの世界」に関する経験がまったくなかった点が物足りませんでした。そこを指摘するなら、もう少し具体的な話を入れてほしかったですね。

奨励賞は2点。「〇〇合わせ」は、タイトルが個性的で、書き出しも引き付ける工夫がみえました。「友情の形」には「向かい合わせ」「背中合わせ」「隣り合わせ」の3つがあり、本当の友情は「隣り合わせ」にあるという結論です。なるほど、と感心しましたが、ライバル関係にある「背中合わせ」に比べて、「向かい合わせ」がどういう関係なのかが最後までよくわかりにくかった。仮説を挙げる場合は、明快な表現で個別の題材を説明していかないと、仮説そのものが弱くなってしまいます。

もう一つの「私にとっての真の友情」は、冒頭で「真の友情とは相手を思いやり、その思いを行動に移せること」と定義し、自分の経験や母親の話を織りまぜながら、この仮説を立証してゆく、論文らしい流れになっていました。ただ、本人が挙げた具体例の紹介がやや淡々としていたため、「なるほど、そうだよ」と読者をうなずかせるほどのインパクトには欠けていました。平凡な話だと、読者を納得させるには限界があります。奇をてらう必要はありませんが、読者が「へえ、なるほど」「そりゃ、そうだ」と引き込まれるようなエピソードを考えてください。その時、自分が成功した話だけでなく、失敗したり、反省したりするような話が盛り込まれていたほうが、読者は身近な存在として感じてくれま

す。もし、身近な体験談で思い浮かばないのならば、テレビや新聞で見たニュースであっても構いません。読者を納得させる「面白い話」があるかないかで、結論に至る説得力が変わります。読まれる文章を書くには、メリハリが重要です。

佳作の「私にとっての本当の友達」は、「スマートフォンなどのSNSか、手紙か」という対比がテーマの、いかにも今日らしい設定でした。筆者はまだ中一のため、携帯は持っていません。しかし、同級生の中にはスマホを持っている子もいます。「SNSでつながっていないと友達じゃないの？」という自問に答えてゆく形で論が展開します。自分は「手紙」派だけど、SNS派の友人の中には、すでに「出会い系サイト」で知り合った彼氏と別れてつらい思いをしている人もいます。小学生時代の思い出話にしては、ややショッキングな印象も持ちましたが、とにかくそういう理由で「本当の友情はSNSの中で簡単にできたりするものではない」という結論になります。全体的な分量が短かったのもう少し丁寧に書き込めばさらに読みやすい、説得力のある論文になったことでしょう。

もう一つの佳作、「私が考える理想の友情」は、SNSを好意的にとらえ、「顔が見えない分、本音をぶつけやすいだろう。そういう意味では人間関係に悩むこともなく、気楽なのかもしれない」とします。SNS＝便利だけど危ないもの、というようなステレオタイプの立場でなく、便利な点を正面から受け入れています。ただ、全体的に分量が少なかつたこともあり、個人の経験が今一つ書ききれていなかったのが惜しかった。SNSの功罪だけでなく、もっと「自分」を前面に出しながら書いてみてください。

論文と作文の違いは、単に「何かを思う」だけではなく、「思ったことから何を結論付けるか」にかかってきます。まず、テーマと仮説を挙げ、その仮説を説明するために自分が見聞きした具体的なエピソードを簡潔に、でも読者が納得するように内容はしっかりと描き、そのうえで結論へとつなげてゆく。このパターンをまずは覚えて、いろんな形でバリエーションを持たせてみてください。